

# よしかわICT教育通信

発行：R3.12 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課）

Vol. 7

## ◆学力・学習状況調査 CBT化へ

CBTとは：“Computer Based Testing”  
コンピュータ使用型の試験・調査のこと

文部科学省は 2024 年度から全国学力・学習状況調査を順次 CBT 化する予定です。

調査が紙からコンピュータに変わることによって右図のようなメリットがあります。すでに OECD の PISA(国際学習到達度調査)が 2015 年から CBT 化されています。

### 増える CBT の活用

社会では就職試験や資格試験など様々なシーンで CBT が取り入れられています。子供たちはこれからの時代、学校以外の場面でも CBT を経験する機会が多くなっていくでしょう。

CBT は ICT 機器の操作に慣れていないと、問題を解く以前につまずいてしまう可能性もあります。そこで ICT 機器の利活用と併せて、CBT そのものを体験することが必要となります。

マークシートの読み取りエラー、マークミスがなくなり精度の高い調査ができる

テスト終了後すぐに評価を知ることができる

動画を使った問題など、教科の特性にあった出題が可能。

問題用紙の印刷、輸送のコストが削減できる



就職試験でも

各種検定でも



### メクビット MEXCBTの紹介



文部科学省が推進する CBT システム。

国や地方自治体等が作成した問題を蓄積し、児童生徒がインターネット経由でテストを受けられるクラウドサービス。

市では1人1台に配備した端末を使って子供たちが安全に CBT に取り組めるよう、文部科学省の CBT システム「<sup>メクビット</sup>MEXCBT」への申請を行いました。

<sup>メクビット</sup>MEXCBTではPISA（国際学力調査）の公開問題、理科の動画を活用した問題、英語検定・数学検定・漢字検定の公開問題など、様々なコンテンツが利用できる予定のため、様々な学習での活用が期待されます。

メクスト シィビィティ  
**MEXT + CBT**  
文部科学省 Computer Based Testing

## 私こそ令和のかたりべ

# ◆吉川市児童生徒プレゼンテーション大会を開催しました

12月11日（土）に市民交流センターおあしす多目的ホールにて、「私こそ令和のかたりべ 吉川市児童生徒プレゼンテーション大会」を開催しました。

参加者は、9月からプレゼン力養成講座<sup>りょく</sup>を経て、端末をフル活用し、相手意識や目的意識を持った「わかりやすく」「効果的な」プレゼンテーションづくりに挑戦しました。

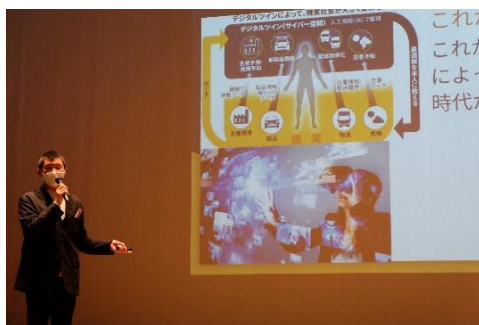


児童生徒が設定したテーマは「和食」「スポーツ」「おもてなし」「雲」「AI」「花札」など、まさに十人十色。

吉川市内の飲食店や市役所に自ら取材した内容をプレゼン資料に盛り込むなど、それぞれが準備してきた成果を披露しました。

当日は緊張しながらも、「令和のかたりべ」として、自分の思いを自分の言葉でプレゼンテーションを行いました。

ここで得た経験を活かして、それぞれの学校での活躍に期待しています。



### ～ 参加した児童生徒の感想 ～

- パソコンの使い方やプレゼンのやり方が分かって良かった。
- 相手に伝わるようになど深く考えながら進めることができました。
- 今後の勉強に役立つと思った。
- とても楽しかった。来年も参加したい。 など

来年度も開催を予定していますので、プレゼン力養成講座とプレゼン大会にぜひご参加ください！



# I C T 術

いつも ちゃんと つかおう

# 術

第7回  
ICT活用が  
未来の自分の  
武器になる

## 自分の思いや考えを 効果的に伝える術 プレゼンテーション能力

国のGIGAスクール構想により一人一台の情報端末と学校内ネットワークが整備され、活用が進められています。これは、情報や技術を適切、効果的に収集・活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えをつくったりできる人を育成していくことがねらいです。

そして、その解決策や考えを他の人にわかりやすく、しっかりと伝える方法や技術も必要となります。その一つがプレゼンテーション力です。ICTを使うことによりそれはより効果的になり、小中学生でもその力は磨けます。

## 注目点



ICTを活用したプレゼンテーションを行うには、どうしたらいいでしょうか。

まずは、日頃から自分の好きなことや関心のあることの情報を広く収集する習慣とその術を持つことです。その手段の一つにICTの活用があります。インターネット等から情報を集められる技術が必要です。

しかし、その情報が常に正しいものとは限りません。それを検証するためにICTは利用していくことも情報活用力です。家庭でも日頃から得た情報の正誤を話題にすることで、確認検証する習慣を身につけることにつながります。

情報が集まったら、どう伝えたらわかりやすいか、自分の思いや考えが伝わるかの原案とプレゼンテーションソフト等で表現する手段を決めます。そのソフトやツールの使える力もこれからの時代に大事なことです。市内の学校ではGoogleのスライドというツールを活用してそうした力をつける取り組みも行っています。そして、どう話したらより伝わるかの話術等も必要となります。

吉川市では、こうした力を育成してもらうためにプレゼンテーション力養成講座と大会を実施しました。



吉川市初の「市内小中学生プレゼンテーション大会」では、この子に負けない素敵なプレゼンテーションが披露されました。